



カタリナ
ひろば

Vol. 21 No. 2
2009. 3

ボランティアサークル「トロロ」のみなさん

聖カタリナ大学
聖カタリナ大学短期大学部

文字の乱費

聖カタリナ大学附属図書館長



毛筆で教案を書く先輩がいた。板書する字も筆で書いておく。こうすると、本番で無駄な話や不要な板書をしなくなり、授業が引き締まったものになるという。毛筆という道具の使用が、本当に伝えたい文字をゆっくりと紡ぎ出し、自ずと内容の冗漫さを削り取るのであろう。

これに対して携帯電話という用具は気ぜわしい。大阪府教委の調査によれば、府内の中学一年生の場合、一日に3時間以上ケータイを使用している者15%、51回以上メールを送信する者10%という。ケータイ漬けの子供たちの生活がうかがえる。しかもメールの返信は着信から3分以内という暗黙のルールがあり、返信までの時間の早さで、人間関係の親密さが測られているらしい（『朝日新聞』2008.12.26）。飲めば飲むほど喉が渴く海水にも似て、過度のメール使用は、意に反して子供たちの心から潤いを奪っているようである。つながりを求めて、ケータイ依存症になる子もいる。性急にやり取りされる電波に乗って、文字も目を回しているに違いない。

日々おびただしい文字が書かれては、読み捨てられている。これ程の文字の量産と乱費は、史上かつてなかったろう。当然のことながら量の増加は質の低下をもたらし、さらには近くにいる者までその乱気流の中に巻き込んでいく。

若いお母さんの中には、メールを打ちながら授乳する人がいるという。授乳期の母子関係こそすべての人間関係の基礎であり、赤ちゃんは自分をじっと見つめてくれる母親のまなざしの中で、初めて他者への信頼を実感しながら成長していく。この大切な母と子の間にまで、ケータイは土足で割り込み、最も緊密な人間関係の芽を踏みつぶすのである。この赤ん坊はケータイを、単なるツール（道具）ではなく、ルーツ（根っこ）と思って育っているのかも知れない。

ケータイが要求する性急さとは反対に、文字を巡る時間のかかるやり取りを、滝沢馬琴と息子の嫁・路（みち）との間に見ることができる。馬琴は『南総里見八犬伝』執筆の途中で74歳の時に失明してしまう。彼はこの長編に精魂を傾けており、何としてでもその完成を望んでいた。考えあぐねた末に、路に口述筆記させることにした。それ以外に頼れる人がいなかつたのである。



『八犬伝』には漢籍にまつわる難解な字が多い。ところが路は、仮名をにじり書きできる程度であり漢字を知らない。「てにをはだにも^{わきまへんつくり}棄へず、偏傍すらこゝろ得ざる」状態であった(『回外剩筆』)。盲人が文盲に近い嫁に難字を筆記させるのである。口述する方も大変なら、書き取る方も、それに劣らぬ苦渋の中でついには泣き出す始末であった。さらに故事引用の時には、誤記を恐れて原典の漢籍を読ませようとするが、もとより路には読めない。文字は、指で教えることもできるが、読み方を教えるのは、その漢籍を見ることができない馬琴には不可能に近い。しかしこうした困難の中でも辛抱強い路は筆を折らず、徐々にこの難事に習熟していく。彼女の協力もあって、大作『八犬伝』は前後28年をかけて遂に完成されたのである。

日本画家・鏑木清方に、行灯の光の中で対座して口述筆記する二人の姿を描いた作品がある。この絵では馬琴は左の手の平を前に出し、そこに右手の人さし指で文字を書いている。自分の身体を「道具」とするその姿には、伝えずにはおかぬ一途な執念が感じられる。いっぽう路は指の動きから何とか文字を読み取ろうとして、舅の手を凝視し

ている。難字なので筆記できなくなったのか、路の筆の穂先は、自分の胸の方に向き己の非力を責めているようである。馬琴の見えない眼は上方を見、彼の指先を見つめる路の視線とは合っていない。しかしそれが却って両者の目指す同じ文字への熱い思いを感じさせる。こうした緊張感の中で時間をかけて熟成していく文字にこそ、生きた命が宿ると言えよう。

学生時代に図書館と縁遠かった人が、多忙な社会人になってから急に本好きになり、図書館利用が急増することは期待できない。大学時代は本好きになれる最後のチャンスなのである。書物からの着信音が聞こえるよう、普段からアンテナを張っておき、図書館に足を向けて欲しいと思う。そこには、乱費に堪えて生き続ける味わい深い文字が並んでいるのである。

教員 ESSAY

食を楽しもう



健康栄養学科准教授
門多 和広

高齢化社会に生きる我々は皆「健康で長生きしたい」と願っています。長寿の方に「長寿の秘訣は?」と質問すると、「よく食べること。よく働くこと。よく眠ること。・・・」という答えが返ってきます。やはり、栄養・運動・休養（睡眠）のバランスがとれていることが元気で長生きできる秘訣なのです。でも、「言うは易し、行うは難し。」です。自分自身を振り返ると、食べることは大好き、でも運動が苦手で、睡眠もうまく取れていらない状態です。その結果は、やはり健康診断でメタボリック症候群（メタボ）と判定されました。健康栄養学科の教員として「あーあ、これじゃ紺屋の白袴だ。」と反省はするのですが、苦手なことはなかなか克服できないものです。だったら、せめて「食を楽しもう」と決心したのです。私の言う「食を楽しむ」とは、文字通り食事を楽しむことと、家庭菜園などで作物作りを楽しむことです。

①食事を楽しむ

毎日の食事は生命を維持し、活動するために必要な栄養素を補給するためです。しかし食事の役割はそれだけではなく、心理的・社会的役割もあるのです。たとえば、おいしいものを食べたときには満足感や幸福感を感じて、精神的な安定や

充実を得ることができます。また、家族や気のあった仲間たちと共にする食事はコミュニケーションの場となり、お互いの絆を深めることに役立ちます。

さて、私が「食事を楽しもう」というのは、なにもグルメ（美食家）になろうというのではありません。前述の食事の役割を理解した上で、「毎日の食事を規則正しくとろう。三度の食事ができることに感謝しよう。家族そろっての食事を心がけよう。ときどきは家族のために食事を作る楽しみを感じよう。」ということです。

まず、毎日の食事は規則正しくとっています。これは、毎回の食事を準備してくれる妻のおかげにほかなりません。そして、三度の食事ができることには食前の祈りと「いただきます」そして食後の「ごちそうさまでした」と日々感謝しています。三番目の家族そろっての食事は、子どもたちが幼かったころはできていたのですが、子どもたちの成長と共にできにくくなつたなど感じています。できる限りの家族の協力を得て、そろって食卓を囲むようにしたいと思います。最後の私が家族のために食事を作ることは、これまでほとんどありませんでした。昔は「男子、厨房に入らず！」と言われましたが、最近では料理のできる男が「かっこいい！」との評価

を受けるようになっています。これからは、私も料理のできる男になり、厨房に入って家族のための料理作りを楽しみたいと思います。

外食をするのも食事を楽しむことのひとつです。地産地消の実践と健康を考えた地域の食材を使ったヘルシーメニューを提供してくれるレストランもあります。最近、そんなレストランのひとつで食事をする機会がありました。ゆっくりと時間をかけて食事をしているときに「幸せだな。生きていてよかったです・・・」と強く感じました。このように感じたのは、料理が単に美味しかっただけでなく、家庭で食事をしている普段（ケ）とは一味違う特別の日（ハレ）の雰囲気に包まれたからです。たまには家族で外食するのもいいものです。家族も喜びますし・・・。

②家庭菜園を楽しむ

我が家には狭いながらも庭があります。今は花壇となっています。四季折々の花が咲き、それはそれでいいのですが・・。子どもたちが幼かった頃にはきゅうり、ナス、にんじん、ピーマンなどの苗を植えて育てていました。自分たちが育てた野

菜を頂くときの感動はひとくわ大きかったことを思い出します。ですから、ぜひとも家庭菜園の復活をしたいと思っています。



2009年は「食を楽しもう」を実現する年にしたいと、このエッセイを書きながら、改めて決意したのでした。



復活した家庭菜園でこんな野菜を育てたいですね。

Campus News



「ぽけっとまつり」を開催します

カタリナ子育て支援ひろば＜ぽけっと＞では、「ぽけっとまつり」を開催します。お子さまづれでぜひご来場ください。

日時：3月27日（金）10:00～15:00

会場：聖カタリナ大学内 芝生広場

＜メインステージ＞ 10:00～

- ・地域子育て支援団体による出し物
- ・スタッフによるオープニング
- ・カタリナ学生による出し物

＜人形劇＞ 13:45～

- ・ぶかさんによる人形劇

＜遊びのコーナー＞ 10:30～12:00

- ・段ボールジャングル
- ・ぬりえコーナー

・輪投げ

・バルーンアートなど

＜芝生の広場＞ 10:00～15:00

- ・企業ブース（物品販売、試供品配布）
- ・フリーマーケット
(子ども・ベビー・日用品限定)

＜体験ぽけっとクラブ＞

- ・『音楽遊び』

・『スクランブルブッキング』

＜その他＞

- ・パン、クレープなどの移動販売

次期学部長・学科長が選任されました



聖カタリナ大学は、現学部長の下田 正教授が来る3月31日をもって2年の任期が満了となることに伴い、2月10日に学部長選挙を行い、坂原 明教授を人間健康福祉学部次期学部長に選出いたしました。

任期は平成21年4月1日から2年間です。



聖カタリナ大学短期大学部は、現保育学科長の三好幸夫教授が来る3月31日をもって2年の任期が満了となることに伴い、2月12日に学科長選挙を行い、中島紀子教授を保育学科次期学科長に選出いたしました。

任期は平成21年4月1日から2年間です。

学長表彰が行われました

12月19日（金）に行われた2008年度学内クリスマスにて、学長表彰が行われました。今年の受賞者は以下の皆さんです。（敬称略）

[ボランティア表彰]

●学生ボランティアセンターの活動を通じ

ボランティアの啓発活動に貢献

佐伯 美幸	(大4)	佐々木 龍之	(大4)
安井 賢子	(大4)	片岡 未希	(大4)
越智 穎拡	(大4)	柳瀬 美智子	(大4)
白石 光	(大4)	岩田 紗知	(大4)
賀原 由佳里	(大4)	近藤 廉哉	(大4)
杉 友浩	(大4)	曾我部 将人	(大4)
宮下 真梨子	(大4)	森 美穂	(大4)
矢野 志穂	(大4)		

●逆デイサービス「コンビ・ベンシア」を実施し、利用者や施設職員との相互交流に貢献

今井 静香	(大3)	岡村 大輔	(大3)
鎌田 亜沙美	(大3)	酒井 奈央子	(大3)
白石 明希	(大3)	竹内 由紀	(大3)
武本 将吾	(大3)	中嶋 可菜	(大3)
中村 浩紀	(大3)	中屋 絵里	(大3)
西岡 紗希	(大3)	嶺森 薫	(大3)
三浦 隆広	(大3)	宮内 亜矢	(大3)
森田 久美子	(大3)	渡部 かおり	(大3)

[文化活動表彰]

●大学祭実行委員として活躍

宮田 祐子	(大3)	堀木 亜矢	(大3)
中野 雄介	(大3)	川久保 晴加	(大3)
越智 彩子	(大3)	上田 肇	(大3)
石丸 祐介	(大2)	矢野 雄大	(大2)
山下 早紀	(健2)		

●学生食堂での「Table for two」運動の取り組みを評価

②藤 純	(大3)	岩本 菜美	(大2)
井門 愛	(大2)	玉井 瑞慧	(大2)
古田 美千枝	(大2)	藤村 晴香	(大2)

●サークル「トトロ」でのボランティア活動を評価

山口 貴大	(大4)	松田 美香	(大4)
小澤 玲緒	(大3)	合田 紗季	(大3)
齊藤 翔伍	(大3)	坂田 季実子	(大3)
高橋 寿美香	(大3)	寺岡 智美	(大3)
富田 静奈	(大3)	永井 絵里香	(大3)
伊藤 達哉	(大3)	大野 真理子	(大3)
高岡 佑香	(大3)	岡田 大	(大2)
白石 純士	(大2)	永井 開行	(大2)
山口 貴史	(大2)	新家 大樹	(大2)
越智 友美	(大2)	矢野 雄大	(大2)
泉 優子	(健2)	山内 郁	(健2)
中島 彩	(保2)	後藤 悠介	(大1)
田中 旭	(大1)		



[スポーツ表彰]

●剣道部に所属し数々の大会で活躍

小窪 瞳	(大4)	奥田 美香	(大4)
見浦 芳	(大3)	荒木 さやか	(大3)
皿田 仁美	(大3)	恩田 矩美	(大2)
佐藤 友紀	(大2)	宮川 千絵美	(大1)
鎌倉 奈央	(大1)	藏ヶ崎 みさと	(大1)
竹政 絵梨子	(保1)		

●H19、20日本女子学生選抜バスクケットボール大会にて四国選抜チームの主力として活躍
鈴木 美奈代 (大3) 石川 万里加 (健2)

●第80回日本学生氷上競技選手権大会
アイスダンスの部優勝など
竹井 達也 (大4)

●第59回四国インカレ空手(演舞)競技優勝
島崎 和典 (大2)

●第75回全日本学生卓球選手権大会出場
布 彩佳 (保2)

クラブ紹介

ボランティアサークル トトロ

「お兄さん、お姉さん、一緒に遊ぼう！」いつも笑顔でやってくる子どもたち、私たちはその笑顔に毎回癒されています。

私たちの所属しているサークル「トトロ」は、毎月第1・第3土曜日に近くの小学校の体育館を借りて知的障害を持った子どもたちと一緒に遊んだり、おやつを食べたりして活動しています。晴れた日は近くの河川敷まで出かけたり、夏は海やプールに出かけたり、10月には松山市野外活動センター「レインボーハイランド」でキャンプをしたりしています。他にもクリスマス会などいろいろな行事を企画して、子どもたちと一緒に楽しみながら活動しています。

やんちゃな子、おとなしい子、良く喋る子、お笑いが好きな子、時間いっぱいとにかく遊び続ける子など、個性的な子どもたちが毎回集まっています。体育館を走り回ったり、一緒にお笑いの物真似をしたり、ゲームの話をしたりして、活動の時間は嵐のように過ぎていきます。一日の活動が終わると学生の方にはさすがに少し疲れが見えますが、でもみんな充実した顔をしています。

中には勝手に行動するので注意をすると、反発をしてしまう子どももいます。しかしみんなで根気強く話していくうちに、ちゃんと注意を守れるようになってきます。さらに、今までできなかつたことができるようになったり、自分より小さい子の面倒と一緒に見てくれるようになったりと、成長していく子どもの姿を見るのはとても楽しく、感動をさせられます。

ある時、普段ほとんど喋らない子が、他の子とケンカをしてしまったことがあります。私たちはその子にゆっくりと話し、一緒に謝りに行きました。するとちゃんと声に出して「ごめんなさい」と言うことができたのです！コミュニケーションが苦手だった子が、トトロの活動に参加して一緒に遊ぶうちに、他の子どもたちとだんだん上手に関わり合えるようになっていくのを見るのはとても嬉しいことです。

サークルに所属している学生たちはみんな心が優しい人ばかりで、いつも楽しく活動しています。卒業した先輩方にも仕事が休みの日にはときどき活動に参加していただいています。このサークルに卒業というものはありません。いつでも活動に参加して子どもたちと遊び、楽しい時間を過ごすことができます。私たちと充実した大学生活を過ごしてみませんか？そして一緒に思い出を作っていきましょう。皆さんの参加を待っています。

(介護福祉専攻2年 永井 開行さん)



昨年10月には、毎日新聞社主催「08年毎日介護賞」の松山支局長賞に選ばれました。



クリスマス会を大学の体育館で開きました。
サンタの登場にみんな大喜び！

松尾 浩一郎 ゼミ

福祉と心理学の双方が深く関わる 領域の問題に取り組んでいます

福祉に関連する心理学的なテーマ・内容を中心に学びながら、ヒューマンサービス業全般に関わるコーピング（ストレス対処）、感情労働、共感疲労の問題など、メンタルヘルス寄りの内容も取り上げています。

●ゼミの特徴を教えてください。

私の専門が心理学ですので、心理学的なテーマ・内容が中心になります。まだ十分にはできていませんが、ゼミでは心理学専門のコースで行われるようなトレーニングをコンパクトにまとめたものを体験できるようにしたいと考えています。さまざまな研究者の活動をしていく中で、読解力、文章作成力、思考力、コミュニケーション・プレゼンテーション能力など、職業生活・社会生活を営む上で大事な能力を鍛え



ることを目指したいです。コンピューターを活用するための練習なども取り入れていますが、できるだけゲーム感覚で、楽しくトレーニングができたらいいなと思っています。

●授業スタイルはどのようなものでしょうか？

コンピューター室を使ったり、コミュニケーション技法の練習をしたり、ゼミの実施形態はいろいろですが、課題を担当する発表者のプレゼンとそれに続くディスカッションという形が基本です。取り組んでもらう課題については私のほうで決めますが、ゼミの進行についてはかなりの部分ゼミ生にまかせています。ディスカッションでは、積極的にどんどん発言してもらうようにしています。

●今後の活動としてやっていきたいことは？

心理学を専攻していない人たちが心理学の専門的な論文を読むのは難しいだろうと思い、以前は専門書を読むレベルで止まっていたのですが、今年の3年生のゼミで論文読解に挑戦してみたところ、みんな予想以上にがんばってくれてびっくりしました。私が研究法や統計などベースになる部分を教えることができれば、論文を読むことも十分可能だというの



がわかりました。このあたり、もう少しやり方を工夫してさらに良い形にしたいと思っています。また、これまで社会福祉士の国家試験対策的な内容を取り入れたりしていましたが、今後、コミュニケーション能力の開発と関連させて、模擬面接やグループディスカッションなど就職活動につながるようなトレーニングもやってみたいと考えています。

●ゼミ生にどんなことを学んでほしいですか？

卒業後、心理学のゼミにいたと言えるくらいには心理学を学んでほしいですが、これはゼミの学習内容をデザインする私の責任でもあると肝に銘じています。

●どのような学生にゼミに入ってもらいたいですか？

自主的、積極的にゼミの活動に取り組める人でしょうか。今現在そういったものが弱いと自覚していても、伸ばしたいと思っているようならOKです。

●ゼミ生へのメッセージをお願いします。

なかなか個性的な人たちが集まってくれて、私も楽しく、やりがいを感じています。限られた時間の中ではありますが、充実したゼミになるようにお互いがんばりましょう。



◆松尾ゼミはこんなゼミです！

松尾ゼミは男子8人女子4人の計12人ののんびりゼミです。

このゼミでは「考える」という作業が多く、主に「発表」を行っています。発表といっても、新聞記事を用いたり、心理学について調べて結果を発表したりなど、そのバリエーションは様々で、飽きることなく楽しくできます。

初めはうまく発表できなかつた人がほとんどでしたが、時事問題にも強くなり、気づいたら鋭い質問ができるようになっていたりと、知らず知らずにスキルUPしてしまうという松尾マジックが、ゼミには隠されているのです！！いやあ～♪社会人として大切なスキルを楽しく得られるのはすごいですね♪(笑)

かくいう松尾先生も、学生以上に発表内容について調べており、1を聞いたら10にも20にもして、詳しく&分かりやすく教えてくれるので、知識量も自然とUP。(学生より先生が勉強している気がするのは私だけでしょうか？笑)しかし、就職対策の面接練習などをゼミの一環で行い、先生がかなり危機感を覚えるほど、やはりのんびりなメンバーに先生もあきれ気味！？ゼミでは静かでも、飲み会では元気いっぱい！！いろんな可能性を秘めたメンバーと、とても楽しい松尾先生とのゼミの時間は、将来絶対に役立つと思います。

大変なメンバーだと思いますが、松尾先生！！これからもよろしくお願ひします。

(社会福祉専攻3年 寺岡 智美さん)

就職活動 レポート

●いよいよ卒業式が近付きました。今年も本学の学生がさまざまな職場へ
巣立っていきます。そこで卒業予定の皆さんに、就職活動の苦労話を聞
かせてもらいました。春からの新生活、体調に気をつけて頑張ってください。
仕事のお休みには、ときどき大学にも来てくださいね。



地元の方々の役に立ちたい！

浅岡 紗季 さん

社会福祉専攻 4年

松山南高等学校卒業



公立保育所を目指すには

金井 丈治 さん

保育学科 2年

松山工業高等学校卒業

◆内定先はどちらですか？

アトムグループ

社会福祉法人 和泉蓮華会（知的障害者施設）です。

◆その職場を志望した理由を教えてください。

一般企業への就職も考えたのですが、やはり4年間の学びを
無駄にしたくなかったので、福祉職で頑張ってみようと思
いました。アトムグループは“ふるさとみたいなまちづくり”と
いうキャッチフレーズのもと、地元・地域とのつながりを大
切にしている職場なので、「地元の方々の役に立ちたい」とい
う私の気持ちに合っているなと思いました。

◆就職活動中の苦労や工夫したことを教えてください。

「自分が何をしたいのか」ということを考えるのにとても時
間がかかり苦労しました。それを見つけるために3年生の冬か
ら一般企業の合同説明会や単独説明会にも積極的に参加し
ました。また就職課を十分に活用しました。就職課の方が親身
になって相談に乗ってくれたことが私の一番の力になりました。
今回内定をいただいた職場も就職課で見つけました。と
にかく就職課へ足を運ぶことが大切だと思います。

◆後輩たちへのメッセージをお願いします。

早め早めに行動することが何より大事だと思います。あ
とは就職課を十分に活用することと、一人でも行動ができるよ
うになることが内定へとつながると思います。それから親と
じっくり話し合って意見を合わせておくことも大切ですよ！

みなさんが、悔いのない就職活動ができるることを願ってい
ます。頑張ってください。

◆内定先はどちらですか？

伊予市職員（伊予市公立保育所）です。

◆その職場を志望した理由を教えてください。

私は以前、伊予市の建設会社で現場監督をしていました。
ある時、伊予市の公立保育所の近くで仕事をする機会があり、
その時に見た保育所の子どもたちの笑顔や先生方のイキイキ
した様子を見て、保育士になりたいと強く思い、社会人入試
を受験して保育学科に入学しました。自分が保育士を目指す
きっかけになった保育所で仕事ができればと思い試験を受け
たところ、幸運にも合格することができました。

◆就職活動中の苦労や工夫したことを教えてください。

公立保育所を目指すには、公務員試験に合格しないといけ
ませんが、筆記試験はとても範囲が広く、短期間ではとても
勉強ができるものではありません。日頃から新聞やニュース
を見て幅広い知識を得ておくことが大切だと思います。

また二次試験では面接が2回と小論文があるので、こちらも
早めに準備をしておく必要があります。

◆後輩たちへのメッセージをお願いします。

公立保育所に限って言えば、県内では正規職員の募集は年
に数カ所ほどしかないようです。でもあきらめずに日頃から
それを目標として勉強や実習を頑張っていけば、いろいろな
意味できつといい就職につながると思います。ぜひ挑戦して
ください。



食の楽しさを伝えたい！

水越 理絵 さん

健康栄養学科 2年
松山西高等学校卒業



職場の雰囲気を重視しました

佐々木 龍之 さん

福祉経営学科 4年
今治南高等学校卒業

◆内定先はどちらですか？

えひめ乳児保育園です。

◆その職場を志望した理由を教えてください。

もともと子どもが好きという理由もありますが、健康栄養学科で妊娠・授乳期から高齢期までの各ライフステージの栄養教育を学んだときに、乳幼児期が生涯の健康や食生活の基礎作りの時期であることを知りました。そこで、私はこれから成長していく子どもたちに、食べることの楽しさや食事のマナーを伝えることで、思いやりや人との関わりなど、心を育てていきたいと考え、乳幼児を相手に栄養士の仕事ができるこの職場を志望しました。

◆就職活動中の苦労や工夫したこと教えてください。

私には保育所などの施設で働きたいという希望がありましたが、栄養士には一般企業からの求人も多く、周りの友達がどんどん内定をもらっていくのを見て、自分も一般企業へ就職しようかと迷ったこともあります。でも自分の望む施設からの求人を待ったおかげで、希望していた保育所に内定をいただきました。

苦労したことは、自己分析です。自分を知ることは簡単なようで意外と難しく、履歴書を書き上げるのにすごく時間がかかりました。けれど、自分と改めて向き合うことで、自分が何をしたいのか本気で考えることができたと思います。

◆後輩たちへのメッセージをお願いします。

私は栄養士になりたくて健康栄養学科に入学しましたが、自信がなくなってあきらめようと思ったことがあります。けれど、就職活動をしていく中で自分と見つめ合う機会が多くあり、やっぱり栄養士になりたいのだと再確認することができました。後悔しないためにも、自分にあった仕事を見つけるよう頑張ってください。そのためにも早いうちに自己分析を行い、自分のことをもっと知っておいた方がいいと思います。もし立ち止まったとしても、一人で悩まず就職課や先生方にどんどん相談に行ってください。親身になって良いアドバイスをもらえると思います。頑張った分だけ良い結果が生まれるはずです。ファイト！！

◆内定先はどちらですか？

株式会社マルナカです。

◆その職場を志望した理由を教えてください。

一足先に同社に就職を決めた友人から「非常に良い会社だ」と聞き、会社説明会に行きました。マルナカという会社を知っていくうちに、高い将来性と何より「働きやすい環境が整っている」と感じ、無事内定をいただいたことで就職を決めました。

私自身、人間関係や労務システム、どんな人が働いているかなど、職場の雰囲気を重視して就職を決めようと思っていたので、それらの全てを満たしていると確信したことが、就職を決めた一番の理由です。

◆就職活動中の苦労や工夫したこと教えてください。

一番苦労したのは自己分析です。自分自身の短所や長所をまとめ、面接官にいかに分かりやすく伝えるかが大変でした。志望する会社の分析も大事ですが、自己分析もそれ以上に大切だと思います。

工夫したことですが、実際にお店（会社）に行って、直接働いている方から会社のことについて聞くようにしました。説明会や人事の方からの話だけではなく、社員の方々の生の声を聞くことでその会社を更に深く理解することができると思います。

また会社説明会では、事前にその会社のことをよく調べ、積極的に手を挙げて質問するようにしました。案外、人事の人は覚えていてくれます。

◆後輩たちへのメッセージをお願いします。

就職課をうまく利用してください。私自身が苦労した自己分析も、就職課から様々なアドバイスをもらいましたし、不安があっても相談することで解消することができました。

それから就職活動は一人だけでしないでください。就職課はもちろん、友人や先生、親とも相談して情報交換しながら活動すれば、必ず自分にあった職場が見つかると思います。

有意義な就職活動をしてくださいね。

図書館から 新着DVD紹介



長崎 俊一 監督
2008年 日本映画 115分

今回は「おばあちゃん」をキーワードにした映画を二つ紹介したいと思います。ひとつは、2002年の韓国映画の「おばあちゃんの家」と、もうひとつは2008年の日本映画の「西の魔女が死んだ」です。

韓国映画の「おばあちゃんの家」は、以前このコーナーで紹介しましたが、ソウルに住むサンウ少年が、家庭の事情でしばらく田舎のおばあちゃんの家に住まなければならなくなります。都会の生活ではゲームもあるし、コンビニにもあるし、テレビだって見ほうだいのサンウでしたが、田舎の家にはそうしたものが何一つありません。不便な山の生活にサンウは文句を言い、不満をぶつけます。一方「西の魔女が死んだ」の主人公まいは中学生ですが、学校に行けなくなってしまいます。そうしておばあちゃんのもとで生活をすることになります。文句ばかり言っていたサンウ少年も、気持ちがすっかり消沈しきっていた少女まいも、豊かな自然や、あたたかいおばあちゃんとの生活の中で少しずつ自分を見つめ、人との関係を修復して、ありのままの自分というものを受け入れるようになっていきます。

毎日のニュースを見たら、本当に気持ちが暗くなることばかりですね。そんな毎日の生活の中ですっかり疲れ果て、傷ついていた心が、再び生気を取り戻し、自分らしく生きるまでを描いた映画です。人間らしさとは何か。本当の豊かさとは何か。この二つの映画は見終わつた後で、そうしたことを考えさせられ、また心に深い余韻が残る映画です。

自分に、帰っていく心の港があることは、どれほどその人の大きな自信につながることでしょうか。見終わってから、そんなことを考えた映画でした。一度是非、ご覧になってみてください。ご利用をお待ちしています。

(図書課 玉岡 兼治)

夏炉冬扇 Karo-Tousen

この春で、聖カタリナ大学に在籍して5年がたちます。男女共学第1期生として入学し、勉強、サークル、アルバイト、遊び…と、とても充実した4年間を過ごしました。その後、事務職員として就職。立場も変わって、なんとか無事に1年を終えようとしています。入試広報課に配属され、窓から学生さんたちが中庭で楽しそうにキャッチボールをしている様子などを観ていると、「自分たちもこの間まであんな感じだったな～」と懐かしく、ちょっとうらやましいなあとも思います。

学生のときは、友だちと一緒にいるのが当たり前。就職してからは、友だちと予定が合わないことが当たり前。いや、だからこそ、たまに会える時間がより大切なものとなるのでしょう。

昨年の11月の話でもしましょう。友だちと予定を調整し、あの世界遺産「厳島神社」へと2人旅に出ました。船？車？いや、あえての原付バイクです。まずは、北条から今治へ。そして、しまなみ海道の爽快な風をきりながら尾道に到着。尾道ラーメンを美味しいいただき、広島市街へと向かいました。国道2号線を西に走り、迷子になりつつもホテルにチェックイン。カップルばかりの客層に嫉妬心を抱き、男2人旅の意義を考えながらくだをまいて就寝しました(笑)。翌朝、宮島へのフェリー乗り場まで駆け抜け、お昼には宮島へと渡航。原付バイク旅ということもあり、厳島神社を目の前にすると喜びもひとしお!! たくさんの観光客に交じりながら、その様相を観光し、穴子めし・揚げ紅葉まんじゅうを食し、心もお腹も本当に満たされました。また、わざわざ厳島神社まで行って引いたおみくじが「凶」だったこと、地元住民の方に「松山・道後」の雲型ナンバープレートを笑われたことはきっと一生忘れません(笑)。

大学を卒業し、就職をし、友だちはみんなバラバラになってしまいました。しかし、その縁をバラバラにするつもりはありません。これからも大学生活を共に過ごした友だちとつながっていたいという想い、これを胸に毎日を過ごしていきたいです(^^)。 (入試広報課 土居 拓也)



カタリナひろば

編集・発行

聖カタリナ大学

聖カタリナ大学短期大学部

広報委員会

〒799-2496 松山市北条660

TEL(089)993-0702(代)

kouhou@catherine.ac.jp